

# VINTAGE MARTIN COLLECTION

中北英紀 / Hideki Nakakita

ヴィンテージ・ギターでプレイした、話題のギター・インストゥル・メンタル・アルバム、「ACOUSTIC GUITAR STREAM」を発表した中北英紀氏は、30本あまりものヴィンテージ・ギターをコレクションしており、その内、17本がマーティンのヴィンテージ・ギター。ここでは、中北英紀氏のプロフィールとCDの紹介と共に、氏のヴィンテージ・マーティン・コレクションの中より、選りすぐりの15本をご披露するでしょう！

取材・文●今野政司/Gimmix 撮影●吉浜弘之



## ●ギター・コレクションの 始まりは国産ギター

中北英紀氏(42歳)は、神奈川県在住の薬局を営む薬剤師。12年前に現在の家を買って、1年後に自ら設計して、地階の駐車場をオーディオ・ルームに改装し、さらにスタジオを増設するほどのオーディオ・マニアでもある。音楽教師で、ピアノ教授をしていた父上が、大のオーディオ・マニアであったことも、氏の音楽人生におおいに影響したようである。

「僕も父に無理矢理ピアノをやらされました。今でもたまに弾くけど、途中でやめたので人に聴かすほどでは…。オーディオは父から引き継いだものもあるので充実してますよ。片チャンネル1000Wの真空管アンプでスピーカーを鳴らしています。中学、高校の頃はロンボーンもやっていましたが、中学に入った時にクラシック・ギターを買って、独学で2年ぐらいいや、中学3年の時に、ベッツィ&クリスの「白い色は恋人の色」の「スリー・フィンガー」を練習していたら、姉貴がヤマハFG-180を買ってくれたんです。その後は吉田拓郎や赤い鳥を弾いていました。大学に入ってヤマハFG-600Jや、FG-630という12弦ギターも買って、S・ヤイのYD-304(あの当時、井上陽水が使っていてS・ヤイは憧れの的)とかも買いました」

## ●マーティン・コレクションは 7年前から!

15年前に結婚してからは、ギターをあまり弾かなくなり、少しブランクがあったが、'92年にギター雑誌を見て、並行輸入のマーティンが20万円前後で買えると知り、中北氏は15年振りにお茶の水に行った。

「確かに安いんで、その日にD-18とD-28のサラを両方買って、一応それで満足していたんです。だけどその後、ヴィンテージの知識も入って、その年に石橋楽器で初めてD-28のヴィンテージを買って、翌年に'66年のOO-21と'49年のOOO-28を弦遊亭で見つけて、これまた2本同時に買ってからは、ヴィンテージ・マーティンの乾いた音の魅力にとりつかれましたね。ヴィンテージ・ギターは弾いていると音が違う。レコードのカートリッジやスピーカーが一個一個音が違うように、生ギターだって同じ'69年のD-45でも音が違うんですよ。「同じ形してるのになんで音が違うんだろう」と思うほど個体差がある。ショックだったのは、ガロやCSN&Yの音をレコードで聴いて、自分の'92年のD-18やD-28で同じ音がしないのは、腕が悪いからだろうと思っていたんだけど、D-45を入手したら、楽器の差だったって判った時です。新しいギターは自分で作っていくもので、ハリのある音は出るけど乾いた音がしない。最初買ったD-18は、自分で力木を削ってスカロップにして、今でも持っています。ギブソンを買いに行ったこともあるけど、いつもマーティンを買ってしまって、'94年のエヴァリー・ブラザーズ・モデルを持っていたことがあるぐらい。ギブソンは反応がないものが多い気がします。今持っ



↑D-45(1969年製 #250269)



↑D-45(1969年製 #244706)



↑D-45(1972年製 #309539)



↑D-41(1969年製 #255049)



↑D-35 (1966年製 #213278)



↑D-12-35 (1968年製 #240517)



↑D-28 (1946年製 #97794)



↑D-20 (1967年製 #223894)



てる'67年のエピフォン・テキサンは例外的に良く鳴ってますけど、今後、手に入れたいの  
は1930年代の12フレット・ジョイントの000-28  
ですね。コンディションが悪くても、音さえしっ  
かりしていれば欲しいですね」

コレクション・リストを見ると「ハカランダ」に  
対する思い入れがひときわ強いようなので、  
その点を質問すると…

「ヤマハFG-180を入手した時に、FG-500  
のハカランダという材を知って、そんな凄いも  
のは買えないなって思ってから、ハカランダ  
という響きが好きになったんです」

### ●CDを作るキッカケは!?

「[ACOUSTIC GUITAR STREAM]を作  
ろうと思ったキッカケを尋ねると…

「中学生の頃からずっと、カセットやオーブ  
ン・テープを重ねあわせて、自分でダビング  
して録音していたんです。高校生の頃から  
の分は記録として残っています。3年前に  
DATと、ローランドのデジタル8トラックVS880  
を買って、録り溜めをしていて、CDにしよう  
と思ったのは2年前です。「ヴィンテージの音  
を聴く機会は少ないので、友達に聴いてく  
れれば良い」と思って、入院していた父のと  
ころへ行って「CDを作るから」と言って、父  
の童謡コンクール入賞曲「ささやき」を楽譜  
にってもらったりして、父が亡くなる前には出  
来上がる予定だったんですが、思ったより時  
間が掛かってしまって…」

### ●オール・マイ・ セルフ・レコーディング!

次に、自宅録音で作られたアルバムなの  
で、その録音について語ってもらった。

「録音すると、自分が弾いている時に聴  
いている音と、違うことに気がつきます。ほと  
んどはA.K.G.4201というマイクで録りました。  
ローズよりハカランダの方がハッキリした音で  
録音され、スクヤロップとノンスクヤロップの違  
いも出るし、D-28よりD-18の方が音がとおり、  
マイクのりが良かったりします。曲によって、  
それに合っていると思うギターを選びました。  
ピックを使う場合は、自分用に削ったサム・  
ピックを使い、弦はダダリオのフォスファーを  
張っています。Dサイズはミディアム、000サ  
イズ以下はライト・ゲージです。オープン・チュ  
ーニングを使った曲が半数ぐらいあり、12弦  
ギターをオープン・チューニングでプレイした  
曲もあります。EQやエフェクトはローランド  
VS880に内蔵されているものを、必要なとき  
に必要なだけ掛けました。作曲、アレンジ、ブ  
レイ、ミキシング、プロデュースと「オール・マ

「セルフ・レコーディング」でした。今、次のアルバムを制作中です」

## ●ヴィンテージ・ギターとの付き合い方

スタジオには湿度調整用の空調機が幾つもあり、ヴィンテージ・ギターを持つと、管理が大変なんだろうと思いき質問を向けてみた。

「ケースに入れて仕舞うと、眠らせてしまうだけで、ギターが可哀相なので、すべて出してあり、その分、空調に気を使っています。オーディオを鳴らすと、ギターも振動して良いのです。弾き終わったら、必ず弦は弛めて手垢を拭き取ります。プレイするためにヴィンテージものを買う時は、リスクも覚悟しなければなりません。自分で気持ち良く弾くには、ある程度お金を出して、直さないといけないからです。僕はリペアを沖田さんをお願いしています」

## ●ディア・マイ・ヴィンテージ・マーティン

最後に、ヴィンテージ・マーティン・コレクションの各ギターについて、コメントしてもらって締めくくろう。

### 1) D-45/69 #250269

あまり弾き込まれていないが、張り艶のあるブリリアント・サウンドです。ジャーマン・スプルース・トップで、サイド&バックはベスト(完全な柎目)なハカランダ。傷も無く、ピックガードのみ交換されています。

### 2) D-45/69 #244706

音はもう1本の'69年製(1)に比べてドーンと来るところはないですが、高音域はD-45特有の厚みのある音。ジャーマン・スプルース・トップで、サイド&バックはハカランダ。かなり使い込まれており、クラックも数ヶ所あります。'69年が2本あるので、どなたか読者で希望する方に、こちらをお譲りしてもいいと思っています。

### 3) D-45/72 #309539

弾いて一番気持ちが良い、音は太く深みがあり、まさに朗々と鳴ります。ノンスキャロップでスキャロップの音がするベストなギターで、オープンDで弾くと、もう最高! トップのジャーマン・スプルース、サイド&バックのローズウッドのクオリティが高いです。

### 4) D-41/69 #255049

D-35とD-45の間の音色で、出しゃばらず上品にバランスされています。特にストロークで爽やかなやさしい音が出る。31本のみ作られた初期のハカランダものの1本で、D-45ほどのクオリティのハカランダではないことが判るが、D-28よりは深い音です。

### 5) D-35/66 #213278

D-28などより遥かにおとなしく、弦高調整、ネック調整後、メディアム・ゲージでベストな音になり、低音は出ないが、バランスのとれた美しい音にもどりました。かなり気に入っているギターです。サイド&バックは、完璧に詰まった柎目!

### 6) D-12-35/68 #240517

乾いたパキパキシャリーンといった音で、所有する中でベストな12弦ギター。バックの



↑D-18 Custom (1997年製 #522184)



↑OM-45 (1979年製 #309539)



↑D-41/69 (1969年製 #255049)



↑D-12-35/68 (1968年製 #240517)



↑000-21 (1951年製 #121288)



↑000-18 (1942年製 #81319)



「ACOUSTIC GUITAR STREAM」  
/中北英紀

- 1) 最後の言葉
- 2) 椰子は潮風にのって
- 3) akiko
- 4) セナのテーマII
- 5) 昭和38年
- 6) 冬のカリブ
- 7) コードG
- 8) 花紀行
- 9) Bach invention
- 10) 少年時代
- 11) 桜の花びらが舞うころ君と歩いた小路一正子へ
- 12) どこまでも行こう
- 13) ささやき
- 14) The end of the world
- 15) 君をのせて
- 16) When you wish upon a star
- 17) サム プライトさんの曲
- 18) Tomorrow never knows
- 19) 日だまりの歌

Chunpei Record R-9810097 ¥1,300 (税込み)  
(問) : (株)B.O.M.サービス  
TEL:0797-87-0561



↑00-21 (1966年製 #213684)

ハカランダもスブルースみたいに目の詰まった最高のもの。オープン・チューニングで真価を発揮します。同じD-35でも、容積が大きいせいか鳴りは別物です。

7) D-28/46 #97794

ヘリングボーン、ノンスキャロップのD-28で、'60年以降のものとは別物の鳴りがする。シャキーンバリバリという感じのサウンドで、かなり乾いており本体も軽くなっています。サイド&バックは最近のD-45のそれよりも目が詰まったハカランダ。サドルは特注です。

8) D-28/67 #223894

最初買ったヴィンテージ・マーティン。'67年製でバックは一応楕円のハカランダ。'46年製よりずっと重く、音もそれに比例して、やや重く響くサスティーンの長めの音。一度売ってしまおうとしたが、音が忘れられずに回収してここにあります。

9) D-18Custom/97 #522184

FMGで特注したD-18。トップはスタイル45用の材を使用。マホガニー・サイド&バックだが、音はハカランダのD-35に近い。本当はブリウォーのD-18が欲しかったのですが、状態の良いものに出会えず、これを手に入れることになったがかなり満足しています。

10) OM-45/79 #309539

'79年のOM-45で、フロント・シフトのスクヤロップなので音はかなり大きい。最近のD-18より大きい音で鳴るが、マイクのりはいまいちで、録音時のクリアさに問題があると感じています。

11) 000-28/43 #97794

'43年製のヘリングボーン、スクヤロップの000-28。高音部はブライトで、中、低域とのバランスもGOOD。特に大きな傷もなく、55歳とは思えないいいたちです。

12) 000-28/49 #112450

ノンスキャロップの000-28。000サイズの中で、1番マイク感度がよいと思う。買ったときはボロボロのギターでしたけれど、千葉のリベアの神様、沖田さんをお願いしたところ、生き返ってしまってびっくり。このギターでアコースティック・ギター・コンテストにも出ましたが、何故か出ただけに終わってしまいました。

13) 000-21/51 #121288

ミント状態の000-21。'50年代のものらしく材はBEST! もう少し弦高を上げてやれば、もっとシャキッとした音になるはず。ヴィンテージは、買ったら自分で調教する事が大切。まだまだ鳴りそうな000です。

14) 000-18/42 #81319

'42年製で軽く、他の000サイズを圧倒して音が大きい。アコースティック・ギター・ブック5の10Pに載っていたのがコレです。子供いわく「床板ギター」。悩みはサドルがサウンド・ホール側に少し倒れていることで気になるが、一応、調整済み。指板、ブリッジはハカランダ。

15) 00-21/66 #213684

ちいさいけれど、結構、いい気分になれる。高音の伸びが素晴らしい、味わいの深いギター。サイド&バックはハカランダ。ミント・コンディションです。